

# Motto! Shimamoto!

平成29年12月18日発行

島本町小中一貫教育推進協議会 事務局

## ◆小中合同授業研究会を実施しました◆

11月22日、島本町小中合同授業研究会において、英語科（四小）、社会科（一中）、生活科（三小）の三分科会で公開授業・研究協議を実施しました。研究会当日の様子を報告します。



### 【英語科】

【授業者】門戸 亜古（四小）、田中 明美（一中）

市川 木の实（四小）、五十嵐 圭名子（四小）

【指導助言】大阪樟蔭女子大学 教授 菅 正隆 氏

#### 【研究授業】

1年生「動物の名前に親しもう！」と3年生「What do you like?」は15分間のモジュール授業で行われた。ゲームや活動を通して英語に親しむことのできる内容だった。

5年生「My name is ABC.」では、日付・天気の確認、8ビートに合わせたアルファベット確認のあと、配られたアルファベットカードで自分の名前を作り、抜けているカードを友だちとのやり取りによって探す活動をした。最後に、自分の名前をワークシートに書いて、全体に発表した。教材のプロジェクター投影や工夫された教材が視覚的にもわかりやすく、リズムのよい授業展開で子どもたちを惹きつけた。

どのクラスも、一人ひとりがしっかりと発音練習する時間が確保され、先生はクラスルームイングリッシュによる短い指示で子どもに寄り添いながらそれぞれの活動にチャレンジさせていた。

#### 【研究協議】

はじめに町教委の畑参事より島本町における外国語教育の課題や方向性についてのお話があり、その後、四小の外国語担当より学校全体で取り組むことの大切さについて話があった。

指導助言者の菅先生からは、小学校の外国語活動の5つの問題（①時間数確保 ②移行期 ③内容上 ④語彙数 ⑤指導者・研修）について、説明を受け、これからの外国語教育の推進にあたり、時代に合わせた教材・教具の活用、子どもを中心とした計画的なカリキュラム作りと新教材の研究をしていく必要があるとの助言をいただいた。



## 【社会科】

【授業者】飯島 知明（一中）、堀 聖二（一中）、大西 駿佑（一中）

【指導助言】大阪教育大学 講師 丹松 美代志 氏

### 【研究授業】

社会的事象を捉え、自分と社会とのつながりを理解・考察するために、「憲法改正の是非について議論しよう！」を3学年合同で企画し実施した。

始めに各グループが考えた憲法改正の是非について考察発表し質疑応答を行った。その後、3学年によるグループ別討論の交流の時間を取った。学年をこえた討論会は初めてのことであったにもかかわらず、異学年の白熱した議論が見られた。

### 【研究協議】

授業者からは、今回の授業のように課題を与え議論を誘発するところから、「フィールドワークに出たい」と生徒から声があがるまでが社会科の醍醐味であると話があった。

指導助言者の丹松先生からは、本時の授業についての講評があり、新聞を活用した授業であったことから、NIEは生徒を社会参画に導く有効な手だてとなり得る、さらには全教科においても言語活動の充実という観点をとらえた手段であるため、それが表れていて良かったと話された。最後に、対話と協同での授業づくりという点で、教師がどう教えるかを考えた「教材研究」ではなく、生徒がどう学ぶかを考えた「授業研究」へと変えていくことが大切だと話された。



## 【生活科】

【授業者】山本 剛司（三小）

【指導助言】大阪大谷大学 准教授 小谷 卓也 氏

### 【研究授業】

2年生の「つくろう あそぼう くふうしよう」の単元では、身近な物を使って遊び自体や遊びに使う物を工夫して作ることが主な活動である。今回は仕組みをゴム動力に限定し、子どもたちが興味を持ってお互いに工夫しあい、学びあうことをねらいとした。子どもたちが事前に作った3種類のおもちゃをよりよくするための作戦を考え、積極的に試したり工夫したりしながらワークシートに気づいたことを記入し、考えを言語化していた。ゴムの長さや数を変えたりすることで飛距離は伸びるが、そうすると紙の部分がつぶれてしまうなどを実際に子どもたちは体験し、実感のある学びとなった。子どもたちは友だちと一緒に試したり、比べたり、相談したりしながら自分なりに工夫しようとしていた。

### 【研究協議】

授業者から、この単元は「いろいろなおもちゃを自分の思いに沿って作り、それをもっとよりよいものにしたい」という児童の意欲で改良を重ねていくということを大切にしたいということ、また、ワークシートに自分の目標をきちんと書き改良点を明確にしてから、おもちゃをどう改良すればいいのかを子どもたちがしっかりと考え取り組むように意識した、とあった。

指導助言者の大谷先生からは、本時の授業では子どもたちの活動がたいへん意欲的であり、おもちゃを改良し試している時の集中力が素晴らしかったことや、導入部分の教師の話す時間はもう少し短くして、あとの共有部分を増やした方がよかったなどの助言をいただいた。

また、活動を通して科学的な認識をいかに子どもたちの中に育てていくのか、実践事例を挙げながら指導をいただいた。ひとつの活動の中にも気づかせたい事象があり、活動の中で自ら気づいていく場作りについて示唆いただいた。



おわりに（事務局より）

昨年度の反省をふまえて今回は早い時期からテーマを絞って伝えることで、より研究内容が明確になって参観の視点や討議の柱がわかりやすかったと思う。

次年度もよりよい研究会になるよう努めたい。